



ハトダヨ  
2024年  
10月号

函館市中央図書館

編集・発行

函館市中央図書館 指定管理者

図書館流通センター・マルエイヘルシーサービス共同事業体

TEL:0138-35-5500 FAX:0138-35-5525

函館市中央図書館だより

第101号 令和6年10月1日 発行

## 予約 ランキング

予約数の多い本ランキングを紹介  
します。こちらを参考に読みたい  
本を探すのも一つの方法です。

令和6年9月20日現在、予約回数の多かった本をご案内しています

- |    |                        |           |
|----|------------------------|-----------|
| 1  | クスノキの女神                | 東野 圭吾 / 著 |
| 2  | あなたが誰かを殺した             | 東野 圭吾 / 著 |
| 3  | 成瀬は天下を取りにい             | 宮島 未奈 / 著 |
| 4  | ブラック・ショーマンと<br>覚醒する女たち | 東野 圭吾 / 著 |
| 5  | ともぐい                   | 河崎 秋子 / 著 |
| 6  | あいにくあんなの<br>ためじゃない     | 柚木 麻子 / 著 |
| 7  | 風に立つ                   | 柚月 裕子 / 著 |
| 8  | 谷から来た女                 | 桜木 紫乃 / 著 |
| 9  | spring                 | 恩田 陸 / 著  |
| 10 | 籠の中のふたり                | 薬丸 岳 / 著  |

## 図書館俳句ポスト受賞者

6月俳句ポストへ応募された中から選ばれた  
作品です。お題は「短夜(みじかよ)」。

入選

父の日を寄る気配なき黒い猫  
鎌振りて鳶ほどけゆく夏の空

銀子 菊地利春

佳作

白鳥のボートの足のよく動く  
黙読をくり返す日の新樹光

中西芳之 松浦学



## ★ 秋の読書週間イベント ★

### 大人図書館ツアー

日時：11月2日(土) 13:00~14:30  
対象：18歳以上の方 定員12名  
内容：①ブックコートがけ体験  
②図書館の裏側見学  
(閉架書庫・屋上 他)  
申込：中央図書館窓口、または電話にて受付  
(TEL:0138-35-5500 担当まで)  
募集期間：**10月13日(日) 9:30より**  
定員となり次第締切

### 図書館員によるブックトーク

日時：10月26日(土) 14:00~15:00  
(13:30 開場)  
内容：スタッフがおすすめの本をご紹介します  
場所：函館市中央図書館 2階 大研修室  
定員：50名  
申込：不要 (ご自由に会場へお越し下さい)

詳しくは館内のチラシ・ポスターをご覧ください



ハトダヨにしか  
載っていない!

ぜひ読んでみてください!

## スタッフのおすすめ本

タイトル:「この銀盤を君と跳ぶ」

著者: 綾崎 隼 出版社: KADOKAWA (2023年12月)

天才 vs 天才。五輪に行けるのは一人だけ。完璧な表現力で観る者を虜にする「氷の獅子」か、圧倒的フィジカルでジャンプの限界に挑む「雪の妖精」か。

二人のフィギュアスケーターの運命が交錯する時、氷上の熱は臨界点を迎える。

前者には振付師、後者には幼馴染が狂言回しとしてそれぞれが天才たちに振り回されながらも、ストーリーを紡ぎ舞台へ導いていくのも読み手の感情を揺さぶる。

後悔も嘲笑も連れだつた物語に祝福を。

場所: A25~30 他  
請求記号: F 77

タイトル:「日本のステンドグラス小川三知の世界」

著者: 増田 彰久/写真 田辺 千代/文 出版社: 白揚社 (2008年4月)

大正から昭和の初めに活躍したステンドグラスの工芸家「小川三知」の作品集です。

ステンドグラスといえば、西洋にあるキリスト教の教会というイメージがありますが、日本独自のガラス障子という建具の中で表現される「花鳥風月」などのモチーフは、和の美しさを盛り込んだ作品となっています。

関東大震災や戦災などで、現存している作品が少ないのがとても残念ですが、青森県の宮城邸など、写真がとても美しく実物をみたくなる1冊です。

場所: A19~21  
請求記号: 751.5 材

タイトル:「謎の症状 心身の不思議を東洋医学からみると?」

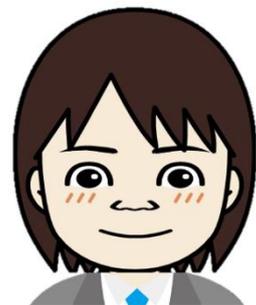
著者: 若林 理砂 出版社: ミシマ社 (2024年5月)

「いびきがうるさい」「乗り物酔いがひどい」などの症状から、「すごいものを見るとよだれが止まらない!」「母親と話すと鼻がかゆくなる!?!」「ある人と会うとおなかを下す!」といったまさに謎の症状まで、超個人的な困りごとに人気の鍼灸師が回答していきます。

興味深いのは、東洋医学の古典から事例を見つけて紹介しているところ。著者の歴史に学ぶ視点と西洋医学を含む現代の幅広い知識、そこから導かれる謎の症状の改善法が本当に面白い1冊です。

場所: A16~18 他  
請求記号: 490.9 7カ

## 館長随想(三十一)



9月上旬に北海道図書館大会に参加してきました。2日間にわたる研修で、冒頭には直木賞作家の河崎秋子さんが講演され、コミュニケーション、AIについて、図書館のボードゲームの講義を聴講してきました。

やはりなんといつても、直木賞作家の講演を聞きたいがために今回参加してきました。河崎さんは北海道人らしく謙虚な印象で、一方、文章を書くことに心血注いでこられた経験豊かな方でした。

たくさんのお話をしてくださった中で、ご自身の子ども頃の読書体験が印象的でした。図書館で読んだ本で「小鹿物語」があつて、少年は小鹿をかわいがり共に成長しますが、作物を食い荒らすため厄介者にされた小鹿を少年は自ら打ち抜くのです。かわいがっていた小鹿を殺してしまう、その行動に驚き傷つき深く考えたと言います。しかし、大人になってその体験は生きていて、ご自身の作品も読者に何か引っかけたい、忘れない作品を書いていきたいと言います。ファンタジーだったりほんわかする作品は他の方がいい作品を出されていきますし、自分の作品は人の心に残るものを、と話を続けられました。図書館には一度は大人の目が通った(選書した)本が置かれ、自由に選び様々な立場の考えを知ることの重要性を話してくださり、図書館員冥利につける言葉がありがたく心に響きました。

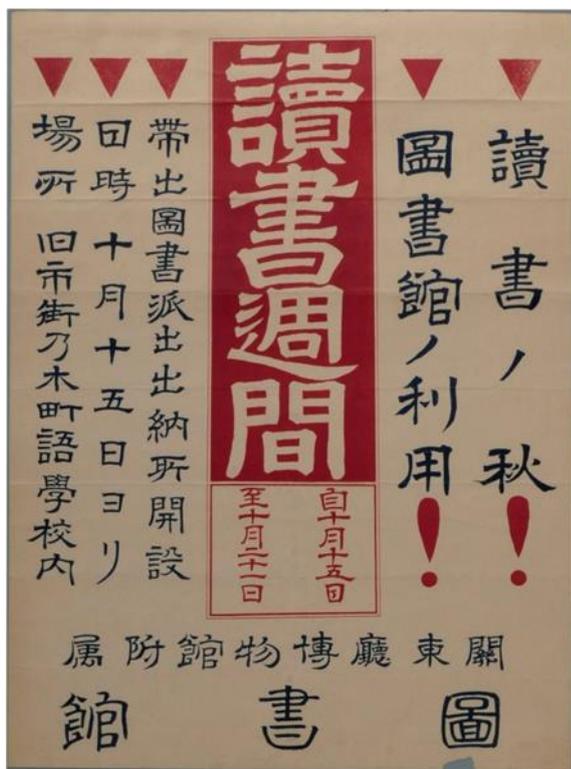
受賞作「ともぐい」の力強さは何か刻まれるものがあります。まさしく読後、忘れられない何かが残ります。すつかり、河崎さんのファンになりました。秋は読書週間ですので、あらたに小説に手を伸ばしてみませんか。(館長 落合仁子)

# デジタル資料館

## 紹介

### 読書週間 (po002375)

昭和初期、旅順にあった関東庁博物館附属図書館の読書週間ポスターです。今ではおなじみの「読書の秋」という表現は大正頃から見られるようになったものだそうで、このポスターは比較的早い使用例なのかもしれません。当時は珍しいものもないポスターも、こうして見ると興味深いものですね。





# 桔梗配本所



## アクティブ!! シニア特集

皆さんご存知のように、日本は超高齢化社会を迎えています。人生 100 年時代、シニア世代の方々は年を重ねてもいきいきとお元気に活躍していらっしゃいます。

桔梗配本所にあります活動的なシニアの本をご紹介します。



「88歳、しあわせデジタル生活」  
若宮正子 (007.6 ワカ)

81歳でゲームアプリを作成した88歳の著者が、デジタルに苦手意識のある人達の悩みに寄り添いながら、デジタルの楽しみ方と心の持ちようを伝えます。



「83歳、いま何より勉強が楽しい」  
野口悠紀雄 (379.7 ノク)

高齢者の生活において、「目的のない勉強」が重要であることを強調し、セカンドライフ、セカンドキャリアについての新しい視点を提供。



「九十歳。何がめでたい」  
佐藤愛子 (914.6 サト)

御年九十二歳、もはや満身創痕の佐藤愛子が、ヘトヘトでしぼり出した怒りの書。



「100歳で夢を叶える」  
木村美幸 (281.04 キム)

90歳を超えてなお、日々を生き活きと過ごし、周囲に活力と元気を振りまく素敵な「生涯現役」の鉄人たち14人が、この先の夢を語るインタビュー集。

☆こちらは2024年映画化されました。

「鎌田式健康手抜きごはん」  
鎌田 實 (498.583 カマ)

「手抜きごはん」で“元気に長生き”人生を楽しもう！ カット野菜やパックの肉・魚など便利素材を使った、簡単で栄養満点のレシピを収録。



ご紹介した他にもございますので、ぜひお手に取ってお気に入りの1冊を見つけて下さい。

皆さまのご来館をお待ちしております。



※掲載の著者の年齢は2024年10月1日現在です。